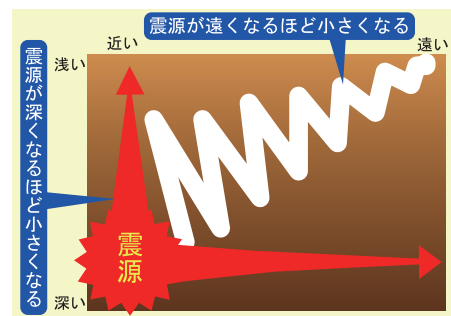


地震による震度と液状化

震度の解説

南海トラフ巨大地震が発生した場合、地震の揺れの強さを表す「震度」は、市全域で震度6弱以上となり、最大では震度7となる地域もあると予想されています。

右図のように、揺れの強さは、同じ地震が発生した場合でも震源からの距離や地盤の状況などによって異なります。特に、軟弱な地盤上ではより強く揺れることがあります。



震源からの距離と震度（揺れぐあい）の関係

<p>震度 1</p> <p>屋内で静かにしている人の中には揺れを感じる人がいる。</p>	<p>震度 2</p> <p>つり下げたものがわずかに揺れる。</p>	<p>震度 3</p> <p>屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
<p>震度 4</p> <p>電灯が大きく揺れる。食器などが音をたて、置物が倒れる。</p>	<p>震度 5弱</p> <p>大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと思う。食器類や本が落ちる。</p>	<p>震度 5強</p> <p>物につかまらないと歩けない。固定していない家具が倒れる。</p>
<p>震度 6弱</p> <p>立ってられない。耐震性の低い木造家屋は一部が壊れたり、傾いたり、さらには倒れるものもある。</p>	<p>震度 6強</p> <p>はわないと動けない。耐震性の低い木造家屋は傾いたり、倒れるものが増える。</p>	<p>震度 7</p> <p>耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では倒れるものが増える。</p>

液状化の解説

南海トラフ巨大地震が発生した場合、市の平野部の広い範囲が、「液状化の可能性がきわめて高い」と予想されています。

◆ 液状化とは？

地盤の中には土の粒子が重なり合っています。この土粒子はかみあっていて、地下水位以下の地盤ではそのすきまの中に地下水がある状態となっています。ところが、地震によって左右に揺すられると、土粒子のかみ合わせが徐々にはずれてきます。ついには土粒子がばらばらになり、地下水の中に浮いたような状態になります。これが液状化現象です。

ひとたび液状化が起きると、砂混じりの水が地表面に噴き出したり、部分的に陥没したりして、建物や地中に埋設していた配管類に損傷を与えます。海沿いや埋立地で発生しやすく、台地でも旧河道や谷を砂質土で盛土造成したところは液状化のおそれがあります。

